令和２年第２３回（臨時）高砂市教育委員会　会議録

日時

令和２年１１月１９日午後７時００分

場所

高砂市役所南庁舎２階会議室２

出席者

衣笠教育長、山名委員、布施委員、吉田委員、神尾委員

出席事務局職員

永安教育部長、阿部教育推進室長、赤松学校教育室長、北野教育推進室教育総務課長
矢野学校教育室学校教育課長、横山学校教育室学校教育課主幹

本日の会議に付した事件

協議事項

１　Ｘ中学校における不祥事の事案について

議　事　　報告事項１　Ｘ中学校における不祥事の事案について

○事務局　　（報告事項１について説明）

○教育長代理　説明が終わりました。御質問、御意見はありませんか。

○委員　　以前より心ない言葉を発することがあったということですが、校長、あるいは教育委員会から何か指導等は過去にされたのですか。

○事務局　教育委員会には心ない言葉を顧問が発しているという連絡はございません。校長からは当該顧問だけでなく、その他の部活の顧問に対しても丁寧に指導はしていただいていたと聞いております。

○委員　　先生の言葉の汚さが以前から問題になっています。播州弁といえば播州弁かもしれませんが、教師が使う言葉としてはあまりにも粗暴です。親しみを込めたものかもしれませんが、そこは反省しなければ駄目だと思います。言葉が粗暴であれば動作にもつながる。いつも脅迫めいた言葉を発していると、生徒児童もいつものことと慣れてしまったり、教師を信頼できなくなり、無視することも出てきたとも考えられます。学校内での言葉遣いに関して、一度徹底して改善することを検討していただきたいと思います。

○事務局　委員がおっしゃったことは本当にそのとおりだと痛感しております。教師の中には、強めの言葉で指導すると指導しやすいという誤解を持っている者も中にはいます。私も若い頃、指導に苦労されている女性の先生を見て、誤解してしまった経験もあるのですが、言葉遣いで自分が楽をしてしまうというようなことではなく授業の質、部活の指導の質で指導をしていかなければ駄目だと思っています。

○委員　　言葉遣いを丁寧にする研修をするとか、そういう意識を持っていただくことはすごく大事だと思います。児童生徒の言語環境は教師の言葉遣いが主だということはよく聞いたり言ったりします。教師が発する言葉では、特に語感が大事だと思います。文字にするときつい言葉でも、語感が優しいというのがすごく大事だと思います。丁寧だったり優しさの籠もった語感だったり、そういう言葉の響きを持った言葉遣い、ただ単に丁寧語を使うということとは違うと思います。言葉の響き、語感をすごく大事にする、そういう言葉遣いを現場で意識するようなことを市の目標の柱にする、そういうことがまずできることとしていいのではないかと思います。よく言うカウンセリングマインドとかアンガーマネジメント、そういう研修を実際にやっていかないといけない気がします。それと、もう１つ、11月14日の土曜日から11月17日の火曜日まで、校長が把握するまでかかっているのですが、この間の流れというのはどういう流れになっているのですか。

○事務局　14日が土曜日、15日が日曜日で、体にボールを当てられた本人ではなく、その友達が生活ノートにこのことを書いてきてくれたということで、16日になるのですが、２年生の担任に情報が入り、同日には管理職に報告は上がっています。資料

の書き方が悪く、事実があったことを把握したというのではなく動いていったのが17日ということで、管理職は把握していました。把握後、対応を練って、17日の日に動いているということです。

○委員　16日は学校では対応をしている。報告があったのが17日ということですか。

○事務局　はい。16日には対策を、17日の朝にどのように聞き取りをしようという確認をしていったということで聞いております。16日は、その生活ノートを受けた教諭が所用で対応できなかったと聞いています。ただ、しっかりと情報伝達をして対応はしていただいております。管理職にも伝えていただいています。

○委員　子供が返事をせず無視する形となったと書いてあるのですが、形となったというのは無視したのか、それとも聞き取れなかったとか、そういう別の要因なのか、その辺りは分かりますか。

○事務局　明らかに無視をしようというのではなく、昨年度から人間関係に問題があり素直に聞き入れられなかったというようなことで、明らかな無視ではないのですが関係性がよくないので聞こえない状況になったのかなと。素直に聞けなかったという状況だと思います。

○委員　素直に聞けなかったという人間関係というのがひとつベースにあり、それも問題であるということですね。声が小さくて聞こえなかったとか、色々あるかもしれませんが、人間関係の改善が必要だと思います。指導する先生の歯止めが利かなかった可能性もあるというのが心配なところです。それと、事例になるのですが、声が出ないという女の子が診察に来ました。理由を聞くと、ソフトボールの部活で、顧問から声を出せと言われて、言われた通り声を出していたら声が出なくなったということでした。診察してみると声帯の炎症でした。声を出させるのはいいのですが、そこまで強いることが必要なのか。もしかするとその子がそういう声が出せない状況にあったかもしれない。やはり先生が時代錯誤しているのではないかと思います。本当に生徒のことを考えて指導しているのか。また、カッとなるということは、自分本位の部活指導ではないかと考えてしまいます。２年ほど前にあった事例とほとんど変わらない。数年間かけて結局改善がなされてないということです。それに「しばくぞ」という言葉を使うこと自身も言葉の暴力になります。最近の小学校でも、子供たちをあだ名で呼ばせないように、呼び捨てさせないように、さん付けで呼び合わすことを指導していって、いじめもなくなった、非常に学校が安定してきたという話もあります。そういうのがありますから、先生の言葉遣いも見直すべきではないかと思います。

○委員　クラブ活動の顧問と部員の人間関係が崩れている、そういう状態でずっと来たということがすごく問題があります。言葉が通じない、分かってくれない、それに対して声を張り上げるという形でカバーしていこうとしているのは、先生のクラブマネジメントがうまくいってないことの表れです。また、先生が行動を抑えることができなかったというのは、人間としてすごく問題がある行動だと思うので

す。だから、学校側も以前から問題があることが分かっていたら、クラブの顧問の在り方に関しても全面に見直しをしていかないといけない。その他にも不満を言い出したら切りがないので、学校の中でのクラブは同好会的なものでいいのではないかと思います。勝とうと考えてする色々な事、やはりここに先生の焦りがでてしまうと思います。勝っても負けても達成感がある、団体スポーツの良し悪しそのものを教えていくという本質。そういう本質を忘れてしまっていることがあり過ぎて、色々これから議論しないといけないと思います。今回に関しては、この先生が信頼を得ることができなくて、それに関しての感情コントロールができなかったこと等、大いに反省しないといけないし、根底には言葉の使い方というのを、親しみを込めての発言でしょうけど、言葉遣いを十分気にして、もう１回考え直してほしいなと思います。

○教育長代理　　教育長が来られましたので、交代いたします。

○教育長　　ありがとうございます。今の御意見を聞いて、今までの体罰というより暴力に対して、まだこういうことが行われているのかという、本当に打ちのめされたような気持ちです。指導力不足であったり、本人の自信のなさであったり、何よりも一番思うのは想像力に欠けているなと思います。そういう言葉をかけたら子供はどんな思いをするだろうかとか、自分と同じ人間と考えたら、こんな言葉や、こういう行動になってしまうということは考えられないはずです。そこが何かしら、その教師のおごりというか、大人として自立してないところがあると思います。まだこんな先生がいるということで、ショックで仕方ないのですけど、ショックだと言っているだけでは改善されませんので、今後は校長先生を通じての場合もありますし、教育委員会から直接に伝えていくということも必要だと思います。できるだけ何回も粘り強くやっていくしかないのかなということで考えています。ただ、部活はこんなので勝てないと思います。

○委員　　そうですね。チームというのは、部員が50人いたら50人が同じ方向を向いてないと、どこからか穴が空いて勝てないです。あと、言葉遣いも含めて、部活動の関わり方というのは、全国的にも変わってきていて、それを本当に考えていかないと、中途半端で結果が出ない、うまくマッチングできてない気がするのです。ですから、中学校の現場でどういう部活動が求められているか、もう一度初心に返ってやっていかないと、あまりにも頻発し過ぎています。

○委員　　色々なストレスが全部相まってのことなのかもしれないのですけど、このお話を聞いたときに、高砂市の子供たちは考えていることを理論立てて文章化して話していくという能力がちょっと弱いとずっと言われていましたが、先生方も弱いのかなと思ってしまいました。言葉で伝える言語能力のスキルが乏しいから手が出たり、おごりが出たりするのではないかと思います。やはり先生方はお手本で、子供たちが見て「こう言ったら相手が納得する」様なことを教えてもらえるような先生であってほしいと願いますので、ぜひともスキルアップのための研修等を

していただきたい。こういうのが何回も繰り返されると、子供との関係が悪くなって、怖くて言うべきことも言えなくなるというのは最も危惧することです。子供たちには厳しく指導しなければいけないこともいっぱいあるので、そういうスキルをつけていただいて、言葉で子供を納得させられるようになっていただきたいと思います。それと、ボールをぶつけるというのは、やっぱり相手を人として見下しているからできることで、例えば自分の親にはいくら腹が立ってもボールをぶつけませんよね。何かその辺が見下しているのだろうなと感じてしまったので、自分の一番大事な人に対してできないことは子供に対してもしないようにとか、そういう思いを持っていただけたらなと感じました。

○委員　１週間ほど前、新聞で体罰の特集をしていました。その中で、「どういう場面で体罰を見ますか」というときに、部活が２割程度、あと授業中が５割から６割となっていました。ただ、高砂市でいうと部活動中の体罰が恐らく多いと思うのです。自分の経験からも授業中は暴言、暴行を働くような場面は少ないと思うのです。それよりも、部活動になると変わる、そういう教師が多いと思います。そこで結果も出すのだけれども、１つ間違えれば体罰につながるようなことがずっとあったので、部活の在り方を本当に考えていかないと駄目だと思います。授業でこの様に話しましょうと言われたら納得できても、それが部活動に繋がるのかなという思いもあるので、部活動の取組方とか、色々なやり方を考えていくほうが授業にいい波及効果があったりするのかなとも思います。

○委員　目立つのはクラブ活動だと思うのです。だけど、授業中の先生の口のきき方、子供に対する自然な対応の仕方そのものが粗暴であったり、チョークを投げつけるとか、椅子を一瞬ぐっと足で押す等、それらも１つの暴力です。それをクラブ活動にもやはりつないでいくと思います。また、汚い言葉を使えば従うだろう、大声を張り上げれば聞いてくれるだろう、そういうシンプルな考え方で、普通に話して納得してくれるか自信がないのだと思います。教育の現場で、色々なことをこなさなければいけないと思ったときに、焦った言葉で出る。そういうのは重々分かります。クラスの中でのざわつきがあったときに、どうしたらいいのかという一種のパニックになったり、経験不足あるいは自分の自信のなさ、色々なことも事実あります。大声を出す、机を少し押す等、日常的にやっていることが授業の中で多いと僕は思っています。クラブになると実際体罰的なことになってくるから、よりはっきり分かると思います。また、レギュラーを外されるとか色々なこともあり、それはやっぱり先生が子供を１人の人間として尊重してないからです。自分が自由に操れる駒みたいな形で思うから、子供らの人間性を安易に考えてしまっているから、すごくそこに腹が立ちます。普段のその人の教育の在り方、考え方、その人の素質になってきたら、適性というのがあるのだろうと思います。それに外れた人は、管理者が見守ってあげて、事前の策を打ちながら、その人を育てるような形のサポートをしなくてはいけないと思う。全体で見ていって、駄

目なことは駄目ときちんと正してあげて、お互いの見守り合いをしなければいけないと思います。

○委員　職場の中にそういう話題が出てくるような雰囲気をつくっていかないとなかなか広がりが出ないので、やはり目に見えた工夫とか研修が必要なのは間違いないと思いますね。これだけあると、何かを具体的に目に見えることをしないと。

○委員　数多くの部活の顧問が同じような体罰等を繰り返しているという事実は事実です。やはり指導に熱が入り過ぎているのだと思うのです。この大会に何としても優勝させたい、子供たちにそういう立派な記録として思い出に残させたいとかいう強い気持ちがあり過ぎるのも１つあるかもしれないと思うのです。それがいい方向に働けばいいのだけれども、結局空回りしてしまって、アンガーマネジメントがうまくできない場合こういう結果になるので、立ち止まって考える余裕がないのでしょう。そういう余裕を持たせるためには、心理的なところで色々と改善しなければならない。できたら先生たちに一律全員にこういうアンガーマネジメントを市として教育して、市全体で取り組むのが一番早いのではないかと。一度そういうのを市として一斉にやるというのはどうだろうかと思います。

○教育長　そういうことも必要かなと思います。また、授業中は少ないのではとおっしゃいましたが、授業においても。子供を１人の人間として見てないようなことがあるかも知れません。それは学年が上がるにつれて、幼稚園よりも小学校、小学校よりも中学校が多くあると思います。幼稚園の先生方というのは、敬称をつけていますし、教室の中で丁寧に子供に接しているのがイメージとしてはあります。中学生に言うことを聞かそうと思ったら、そういう厳しい態度で接しないと言うことを聞かないのか、色々理由があると思います。しかし、教師として、プロとしては、そこはしっかりと自分の指導力を上げて、言葉できちっと諭すということをやっていかないと駄目です。今は、親が子供にしつけだといってたたいたりしても虐待ということで、先生がというのは論外だと思いますので、そこら辺りのことをもっと自覚をしていただくように。県は体罰に大変厳しい懲戒処分をすることによって、そういう姿勢を出しています。押さえつけるのも１つの方法かもしれませんが、それはちょっと寂しいです。きちっとそういうことを分かった上で先生が自覚していただくというのが一番望ましい形だと思います。分かっていただいて、何かの機会に、中学校に行ったときにそういったことを委員さんも言っていったり、私たちも言っていったりしながら、部活動のことをよく知った、そういう方が言うとまた違ってくると思うのですけどね。

○委員　もう１つ問題なのは、返事せずに無視する形となった、その子の心理状態です。聞こえていたか聞こえていなかったのかも分かりませんが、無視するような形だとしたら、この子の日常生活の在り方というのもすごく気になるのです。クラブ活動ではなくて、これが教室の中で、ほかの同級生にやったとしたら、それが２人以上になったりしたら、いじめになっていきます。この世代の子供達はネット

等で無視したりするとどうなるかということをよく分かっていて、スマホが手放せないといいます。そんな時代に、先生は自分が無視されたことに関して、権限、暴力で対抗しました。今の中学生がいろいろ葛藤しながらやっていることよりも、先生の考え方が本当にシンプルです。その辺の配慮の浅さが、先生として適性がないといわれても仕方がないことだと思います。いかにそれを周りがサポートしていくか。研修も１つの教育でしょうけど、個々のつながりも大事ですよね。

○委員　中学生ってまだまだ子供で、反抗的な態度を取ったり、無視したりしたら、「どうした。何かあったか」と聞いてほしい。自分に注目してほしいとか、気にかけてほしいという思いでする子ってすごく多いのです。それに対してボールをぶつけられたというのは非常にショックだろうし、先生も色々あって大変だとは思いますけれども、それを受け入れるだけの余裕は持っていていただきたい。無視されたというのでかっとするのではなくて、無視したら「何故だろう。何かあったのかな、ちょっと聞かせて」ぐらいの器が欲しいなと思うので、かっとして手が出るという方は、性格的に指導者には不適格だと思います。努力してそれを抑えていくことはできると思うので、自分はプロなのだからという意識を持っていただいて、自分がどういう思いであっても、まず相手の気持ちを聞かなきゃいけないということを心にたたき込んでいただければありがたいなと思います。

○教育長　今、委員の皆様が言われたようなことで、職場でそういう言葉かけをして、この顧問の先生に語りかけていくような雰囲気づくりがあれば、また違ってくるのだけれども、その保護者の方も、「いろいろよくやっていただいています」とか「うちの子が悪いのです」とか、そういうことがあって、教師はそれに対して申し訳ないと思って反省して、心を入れ替えてとなればいいのですが、その保護者の支援に甘えてしまったら、「こんなふうに応援してくれている人もいるのにおかしい。」と勘違いしてしまうということもあります。当人はもちろんなのですけど、その周りでその先生方を支えていく、学校の中の雰囲気、それから保護者の雰囲気、やっぱりこの方たちが体罰を否定して、子供を大切に見守っていきましょうというようなものをつくっていかないと、一生懸命してくれているのにみたいなことを言うと、またそこで勘違いするから、先生に対して厳しいことも言っていくような雰囲気づくりができないと駄目だなということを今回も改めて思います。体罰は許さない、子供の人格をきっちりと保障していく、そういう学校の雰囲気づくり、学校文化をつくっていくことが根本的に体罰を根絶するためには必要かなと思います。また教育委員会としましても、そういったことに向けて、粘り強くやっていかなければいけないという思いで、私個人的にはそういうことを思っているところです。貴重な御意見をいただいて、今いただいた御意見は必ず現場の者には伝えていきたいと思います。何かほかにありますか。

○事務局　すごく委員の皆様が子供のことを思ってくださっているというのは本当にありがたいなと思いながら、聞かせていただいていました。子供への指導も根本的に

今見直すべきときではないかという御意見をいただいたことがすごく思いましたし、教育長が最後おっしゃっていたことも本当にやっていかなければいけないなと感じました。

令和２年１１月１９日　午後７時５３分　教育長会議の閉会を宣告